

## 河川整備先進地の 視察研修を行いました

茶郷川治水協議会では、今後の茶郷川改修に向けて知識や意識を高めるため、11月22日に参加者35名で三条市の一級河川「五十嵐川（いからしがわ）」の視察研修を行いました。

訪問先の三条地域振興局で、地域整備部災害復旧第1課より、五十嵐川の治水史や改修事業の概要について説明を受けました。

五十嵐川では、最近10年余りの間に、2度（平成16年7月、平成23年7月）の豪雨災害が発生しました。

平成16年7月豪雨では破堤氾濫が発生し、下流市街地において災害復旧助成事業により河道整備（3.9km）を実施しました。

その整備事業が完了した年に今度は平成23年7月新潟・福島豪雨が発生しました。平成23年の豪雨では、平成16年豪雨の約2倍の雨量を観測し、特徴として降雨量の二山波形が顕著であったとのことでした。

7月29日の一山目の洪水で既設の2つのダム貯留容量が満杯となったため、7月30日の二山目の洪水で河道流量がピークに達しました。改修済みの下流市街地では、堤防の高さ近くまで水位が上昇するも越水は回避されましたが、未改修の中流・上流部において、越水や堤防決壊による浸水被害が発生しました。



五十嵐川の治水史などの説明を受ける参加者

復旧方針として、一山目の降雨による洪水を安全に流下させることを目標として、河道改修と笠掘ダムの嵩上げ、遊水地の整備による流域貯留を組み合わせ、下流市街地の水位低下を図るとともに、信濃川本川への洪水の流出を抑制するため現在も災害復旧工事が行われています。

現在、五十嵐川の河道改修工事は総延長約26.7kmのうち、90%以上が完了し、遊水地整備、笠掘ダム嵩上げ工事、鹿熊川上流部の橋梁工事が行われています。

施設見学では、事業概要を紹介している「いからし悠水館」や施工中の「遊水地」及び架替えが完了した「永田新橋」を訪れました。



いからし悠水館の見学



遊水地工事現場の見学

## 環境整備部会（茶郷川環境整備協議会）の視察研修を行いました

茶郷川環境整備協議会は、河川環境と景観の維持向上を目的とした活動を通じて、茶郷川の大切さを多くの皆さんに実感していただき、また、住民同士の交流を深める機会づくりにも取り組んでいます。

茶郷川環境整備協議会では、毎年1回、県内外の同様の活動に取り組む団体を訪れ、視察研修を行っています。

今年は、11月9日と10日に参加者7名で長野県松本市で「穴田川」の環境整備に取り組んでいる「穴田川をきれいにする会」の皆さんと意見交換などを行いました。



意見交換を行う参加者

### 穴田川をきれいにする会の活動

穴田川をきれいにする会は、昭和47年に「河川沿いの急激な工業化に伴い汚染された穴田川を自らの手で守り浄化する」との強い決意のもと設立されました。

現在は、河川流域の13町内会（5,545世帯）と周辺の71事業所で構成されています。

活動の成果として、水草が揺れ、魚が群れ泳ぐ川に甦ったとのことですが、今でも設立当時の思いを持ち続け、河川環境の美化・浄化、また流域町内や事業所の交流を図りながら、河川清掃等の取り組みが行われています。



穴田川現地視察の状況

## 茶郷川環境整備協議会が「アダプト・プログラム」助成団体に決定しました

公益社団法人食品容器環境美化協会が行っている「アダプト・プログラム」の助成団体に茶郷川環境整備協議会が選定されました。

応募109団体のうち選定された中から29の助成団体が10万円の助成を受けられます。

この制度を活用し、今後も茶郷川の環境美化に取り組んでいきます。

### 【アダプト・プログラムとは】

「アダプト・プログラム」は市民と行政が協働で進める「まち美化プログラム」です。

アダプト（ADOPT）とは英語で「〇〇を養子にする」の意味です。

一定区画の公共の場所を養子にみだて、市民がわが子のように愛情をもって面倒をみて（＝清掃美化を行い）、行政がこれを支援します。

市民と行政が互いに役割分担を定め、両者のパートナーシップのもとで美化を進めます。

公益社団法人食品容器環境美化協会  
ホームページアドレス  
<http://www.kankyobika.or.jp>